

アユの種苗生産について
～親魚養成から出荷まで～

福井県水産試験場

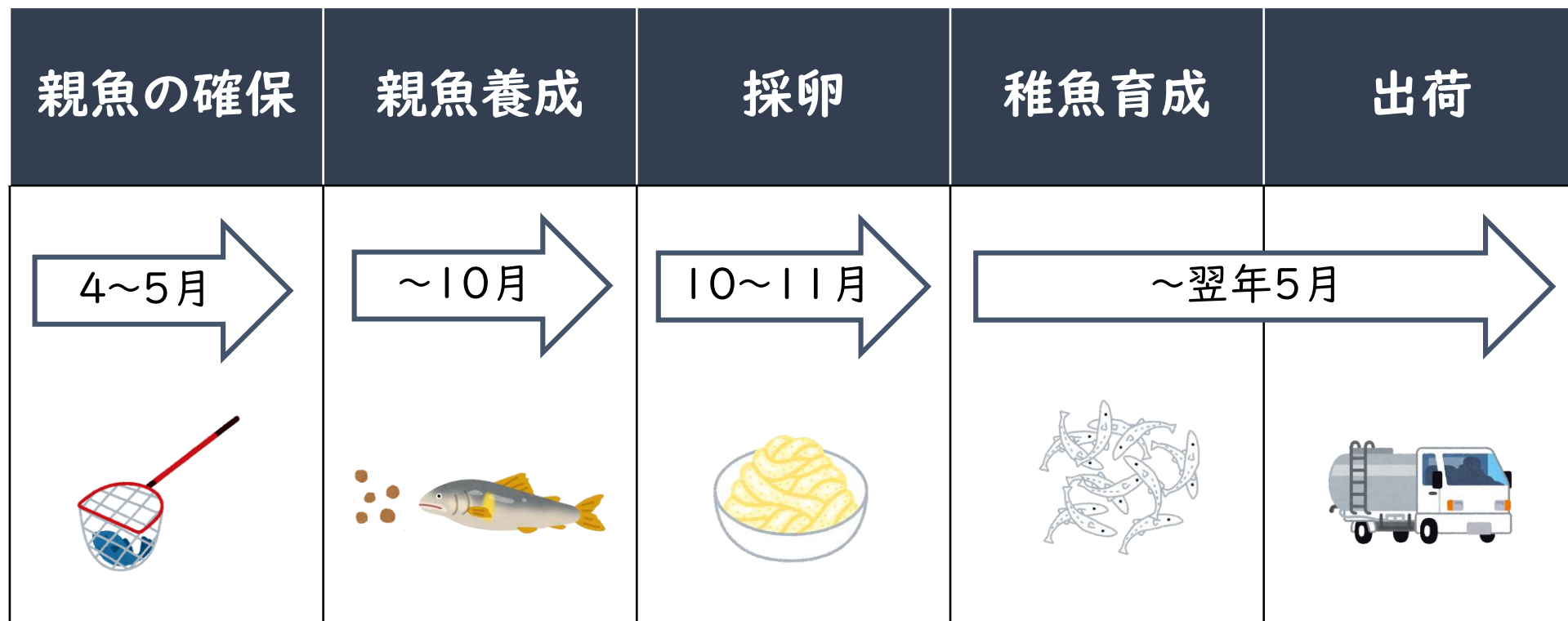
内水面総合センター

R3.5.21

種苗生産の概要

内水面総合センターでは、県内河川のアユ資源の維持と増殖を目的に、再生産に寄与する海産種苗を栽培漁業センターと共働で、年間200万尾育成・出荷しています。

アユの種苗生産は、昭和57年から行っており、多くの漁業関係者様の協力によって実施できています。



親魚の確保 (4月下旬~5月)



漁業関係者様に御協力をいただき、
数日かけて遡上した天然稚アユ(1~2万尾)
を捕獲しています。

捕獲した稚アユは、バケツリレーで活魚水槽
に入れ、内水面総合センターまで運びます。



親魚養成(～10月)



- ①搬入した稚アユを1/2海水で、半日ほど塩水浴を行います。
- ②数日間かけて人工飼料に慣らしながら、加温などにより、魚病発生を予防します。
- ③養成する親候補を選抜し、養成用の100ℓ水槽に移します。

親魚養成(～10月)



- ④6～7月にかけて、夜間照明をつけ、成熟を促します。(通常より、1か月早く採卵できます。)
- ⑤成熟が進行(9月頃)したことを確認でき次第、加温を停止し産卵誘発を行います。
- ⑥水槽内に設置したシュロに着卵が確認され次第、採卵に移行します。

採卵（10～11月）

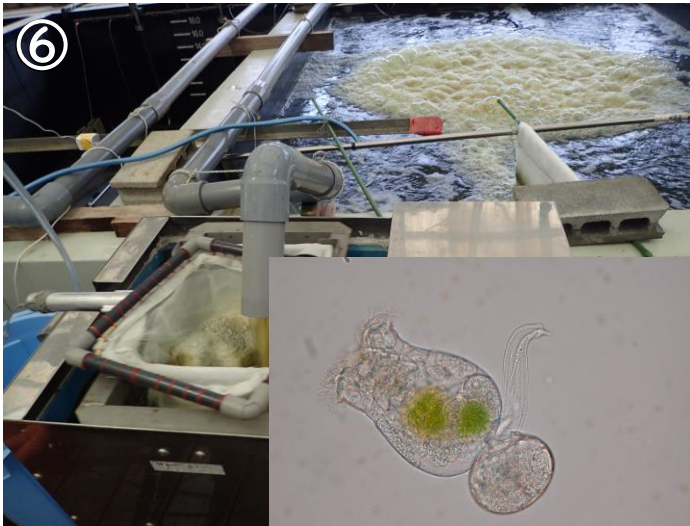


①成熟した雄から採精し、人工精漿液で希釈します。

②成熟した雌から採卵します。

③卵に①の媒精液をかけます。

採卵（10～11月）

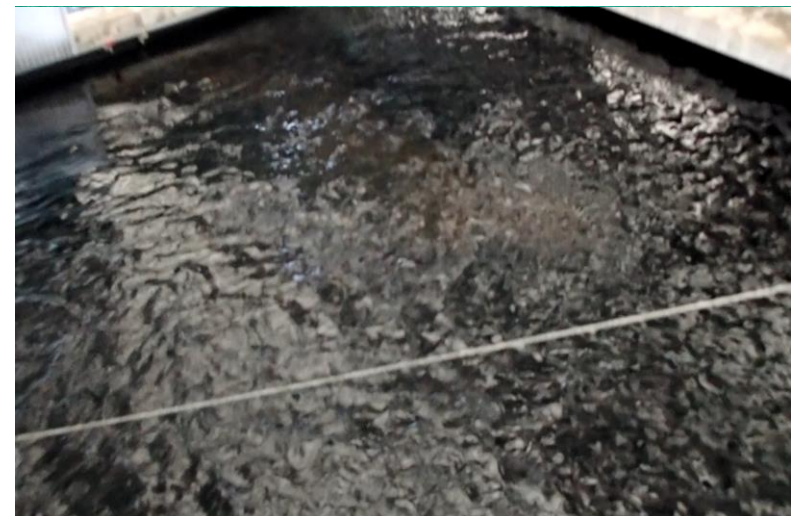
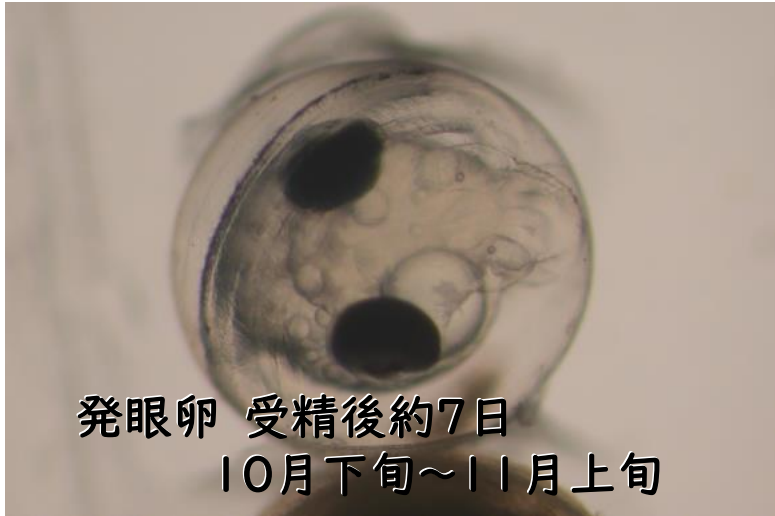


④受精卵をシュロに付着させます。

⑤着卵したシュロは100ト水槽に吊り下げ、
孵化するまで15℃の淡水で2週間ほど管
理します。

⑥仔魚のエサとなるワムシを培養します。

稚仔魚の育成（～翌年5月）



出荷（～翌年5月）



- ①出荷予定である水槽の水量を減らします。
- ②フィッシュポンプでアユを吸い上げ、出荷用プールに移します。
- ③たも網ですくいあげ、計量して活魚車に移します。

放流（～翌年5月）

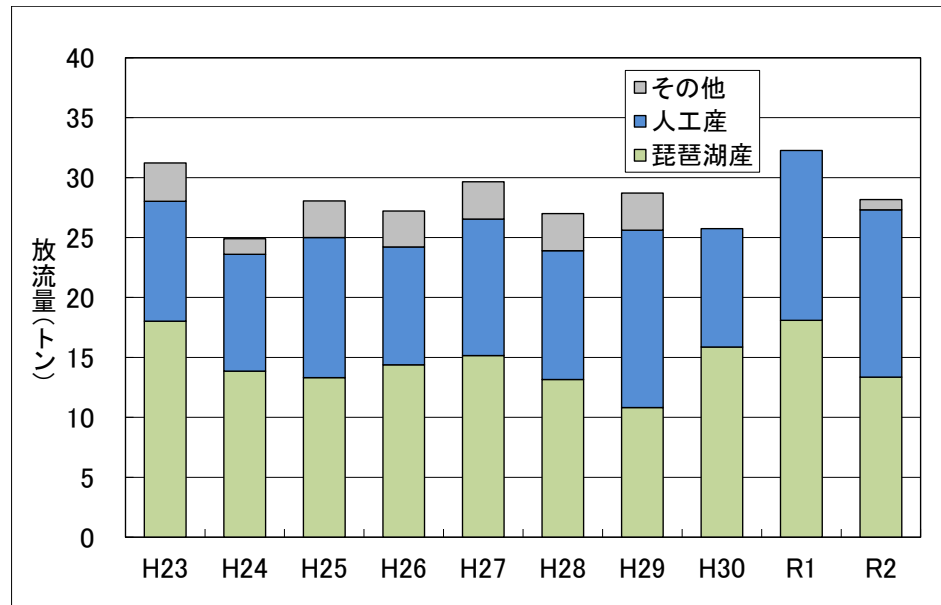


図.由来別県内放流量の経年変化